



『「運」を味方にする人の生き方』

栗山英樹、横田南嶺(著) 致知出版社(2025年1月)

侍ジャパンを世界一に導いた名将・栗山英樹氏。その栗山氏が尊敬してやまない臨済宗円覚寺派管長である横田南嶺氏が勝者の哲学について語った一冊です。

book review

【感想】

コントロールできない運を掴むには、「小さなことの積み重ね」「私心を捨てて、自分以外の誰かのために尽くす」ことを心がけていき、「神様が許してくれるのではないか」と感じるほどの全力の姿勢こそが、運を引き寄せる鍵だとおっしゃっています。

稲盛和夫氏の名言「おい、神様に祈ったか？(最後の最後まで努力して、全てをやり尽くした上で、後は神様に祈るくらいしかないというくらいやったのか？という意図)」と通じる世界観です。

また、本書では組織のリーダーやマネジメント層にとって、強いチームを作るためのリーダーのあり方を下記のように教えて下さっています。

- ・リーダーの仕事は2つで「決める」と「人が一番やりたがらない嫌なことを率先してやる」
- ・リーダーは「信じる」だけでは不十分で、「信じ切る」ことが大切

スポーツと禅という異なる世界の名リーダーの視点が面白く、運を引き寄せるヒントに溢れた内容で「生き方」に良い示唆を与えてくれる一冊です。

【以下引用】

・強い組織というのは、全員が自分の都合よりもチームの都合を優先し、全員がチームの目標を自分の目標だと捉えていることだと思っています。試合に出ていない選手がベンチにふんぞり返るように座って傍観しているチームなのか、それとも前のめりになって声を出しながら、いつ自分に出番が来てもいいように準備をしているチームなのかでは全く違います。

・選手のために、チームのために、ファンのために、というように自分以外の誰かのため、何かのためということを考えてやっていると、「私」が消えていく感覚があるんです。

・小さなことが積み重なって、運に繋がる。たとえば、選手が朝、「おはようございます」って挨拶してくれたときに、こっちが考え事をしていて挨拶が疎かになったりとか、ちゃんと向き合って明るく笑顔で人に接しているとか、すごく小さな積み重ねだと思うんですけど、そういう姿勢が足し算のように積み重なって運に影響しているように思うんです。

・我々の世界でも理不尽な指導をするのが非常に難しくなってきました。しかし、理不尽なことを一切なくしてしまってもいいのかという疑問はあるんですよ。世の中を生きていく中には、理不尽な目に遭うこともあります。それなのに、人格形成の大事な時期に無菌室の中に入れたような状態で理不尽なことは一切させないというのはどうなのか。合理的な訓練だけでは、理不尽な目に遭ったときに弱ってしまうのではないかと。

「小さなことが積み重なって、運に繋がる」。皆様は当たり前のことを当たり前にできていますか？
「わかっている」とことと「できる」ことには大きな違いがあります。1歩ずつ改善行動を積み重ねていきましょう。